

盛岡森林管理署	
タイトル	民・国連携治山事業見学会
実施年月日	平成24年11月2日（金）
実施場所	岩手県岩手郡岩手町北上山国有林1051林班外
参加者	局署：盛岡森林管理署、岩手北部森林管理署 5名 外部：北上川上流流域森林・林業活性化センター、 岩手県盛岡広域振興局林務部、八幡平市、岩手町、 岩手町横沢地区住民 14名 計 19名
<p>【取組の目的・概要】 治山事業の施工地が山間部で人目に触れにくいこと、土砂災害等の発生から復旧までに時間が掛かることなどから、当該施設の受益対象者である地域の住民にとっても、治山事業の意義、役割等への理解が見られないのが一般的である。 このため、局地的豪雨により激甚な被害を被った地域住民に対して、丁寧な説明会や見学会を設定することにより、治山事業による安全・安心への取組をPRする。</p>	
<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施工途中及び完成後の様子を見聞を通じて、民有林と国有林が災害直後から連携して、効率的・効果的な施工に取り組んでいることが地域住民に理解された。 ・ 地域住民に対する説明責任を意識した民国間の打合せや意見交換等を通じて、地域のニーズに合ったきめ細かな対策を講じることができた。 ・ 国有林治山施工地への途上、平成22年度に発生した雪害跡地について、被害木処理の一環として行った地拵・植付や除伐等を現地で説明し、公益的機能の維持・増進等のための国有林の管理経営のPRも併せて実施できた。 	
<p>【出された意見】 見学会に参加した地域住民から、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「民有林、国有林ともに、連携して治山事業が行われていることが理解できた。」 ・ 「ダムは無駄だとばかり思っていたが、実際に現地を見て、安全・安心の暮らしのため非常に大切な施設であることを認識した。」 ・ 「間伐材は、どの程度腐らずに保つのか、また、腐ったときの外観はどうかとの疑問はあるが、地元の間伐材が有効に利用されていることは評価できる。」 <p>などの意見が出された。</p>	
<p>【今後の課題】 下流域の直接の被災者の関心・理解は深まったが、依然として一般住民の治山事業に対する認識度が低いことから、今後も治山事業へのより一層の理解の醸成を図る継続的な取組が必要である。</p>	

タイトル 民・国連携治山事業見学会



開催挨拶



治山事業概要説明状況



施工途中の治山ダム（私有林）



雪害跡地での状況説明（国有林）



山腹工施工箇所（国有林）



施工完了の治山ダム（国有林）